

群 教 セ	G06	02
	平14.207 集	

運動の特性を楽しむ体育科指導の工夫

学習資料の活用を通して

特別研修員 古澤 浩明 (吉井町立岩平小学校)

《研究の概要》

本研究は、体育科運動領域の学習において、学習資料を活用することにより、運動の特性を楽しむことを目指したものである。具体的には、単元における児童の実態に合わせて構成した学習資料を活用し、興味・関心に応じて幅広く運動にふれ、自分に合った運動を見つけたり練習方法を工夫して運動したりしながら自分の課題に進んで取り組み、その成果を生かして運動することで運動の特性を楽しめるよう、指導の工夫を行ったものである。

【キーワード：体育 小学校 運動の特性 学習資料】

主題設定の理由

小学校の体育科では、児童が学習を通して様々な運動と出会い、実践を通して運動の楽しさや喜びを味わえることが大切である。このことが運動に対する親しみを育て、進んで取り組む意欲を高めていくもととなる。

本校の児童の実態を見ると、低学年ではすべり台やブランコやアスレチック等の固定遊具を利用した運動や鬼ごっこやドッジボールに人気がある。中・高学年ではサッカーに人気があり、休み時間には、中・高学年男子の多くがサッカーをして遊んでいる。また、短縄跳びの検定会の時期には多くの児童が「がんばりカード」を活用しながら自主的に練習している。

これらの場合、その運動のもっているゲーム性や用具・遊具を扱うことの楽しさ、あるいは検定会で級が進むことの喜びを味わっていると考える。しかし、陸上運動や器械運動のように、克服的な要素の強い運動で、速い・遅いや技のできる・できないがはっきり見えてしまう運動では、楽しさを十分に味わえていない場合がある。その要因としては、児童が運動の幅広い楽しみ方にふれる活動内容や時間が不足していたり、教材が整えられていなかったりしていることから、その運動の特性を楽しめていないことがあげられる。

そこで本研究では、幅広く運動にふれ、自分に合った方法で楽しく追求し、その成果を実感できるよう、学習資料を活用して次のような支援を行い、児童が運動の特性を楽しむことができるようにしたいと考えた。つかむ過程では、学習資料により、今もっている力でできるやさしい運動から挑戦したい運動まで、運動の内容を幅広く紹介し、自由に選べるようにする。そうすることで、興味・関心に応じて楽しく運動に取り組むことができると考える。追求する過程では、学習資料により、運動のポイントやいろいろな練習の仕方を紹介し、自分に合った運動を見つけたり練習の仕方を工夫したりできるようにする。そうすることで、自分に合っためあてに進んで取り組み、追求の楽しさを味わうことができると考える。まとめる過程では、学習資料により、追求の成果を出し合う学習の場を設定し、追求の成果を生かして運動できるようにする。そうすることで、できるようになった喜びを味わったり、互いに認め合ったりして、運動の楽しさを実感することができるように考える。

このような方法で学習資料を活用することにより、運動の特性を楽しむことができると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

体育科の学習において、幅広い運動の楽しみ方にふれ、自分に合っためあてをつかみ、練習方法を工夫し、成果を認め合う活動に学習資料を活用することは、運動の特性を楽しむために有効であることを明らかにする。

研究の見通し

- 1 つかむ過程において、興味・関心に応じていろいろな運動を自由に選べるよう、学習資料を活用すれば、今もっている力で楽しく運動することができるであろう。
- 2 追求する過程において、自分に合った運動を見つけたり、練習方法を工夫して運動したりできるように学習資料を活用すれば、自分のめあてに進んで取り組み、追求する楽しさを味わうことができるであろう。
- 3 まとめる過程において、追求の成果を確認し合ったり、発表し合ったりする活動に学習資料を活用すれば、できるようになった喜びを味わったり、互いに認め合ったりして、運動の楽しさを実感することができるであろう。

研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) 運動の特性を楽しむとは

運動はそれぞれの特性をもっている。例えば、器械運動のように技を練習して上手にできるようになることで楽しさを味わうものや陸上運動のように自己の記録の向上を目指して挑戦する楽しさを味わうもの、また、ゲームやボール運動のように集団で競い合うことを楽しんだり、リズムダンスや表現運動のように心や体で感じたことを表現することで楽しさを味わったりするものもある。

つまり、特性を楽しむとは、それぞれの種目の学習過程において課題の解決を目指していく中で味わえる楽しさであると考え。本研究では、運動の特性を楽しむ過程を次のようにとらえた。

興味・関心に応じて幅広く運動にふれ、今もっている力で楽しく運動する。

自分に合った運動を見つけたり、練習方法を工夫して運動したりし、自分のめあてに進んで取り組み、追求する楽しさを味わう。

追求の成果を生かして運動することで、できるようになった喜びを味わったり、互いに認め合ったりし、運動の楽しさを実感する。

このように学習活動が展開したときに、運動の特性を楽しむことができると考える。

(2) 学習資料の活用について

学習資料とは、単元で扱う種目の様々な運動と各ポイント、自己評価の観点等を紹介する補助教材である。

本研究では次の3種類の学習資料を用いた。

児童が各自携帯する「個人資料」

運動の場に掲示する「掲示資料」(個人資料を拡大したもの)

学習の進みと自己評価を記入する「個人カード」

これらの学習資料を、以下のように活用した。

つかむ過程では、学習資料により、今もっている力のできるやさしい運動から挑戦したい運動まで、運動の内容を幅広く紹介し、自由に選べるようにする。

追求する過程では、学習資料により、運動のポイントやいろいろな練習の仕方を紹介し、自分に合った運動を見つけたり練習方法を工夫したりできるようにする。

まとめる過程では、学習資料により、追求の成果を出し合う学習の場を紹介し、追求の成果を生かして運動できるようにする。

学習資料の構成については、児童の発達段階に応じ以下の点に留意した(資料編 - 1 参照)、やさしい運動から挑戦したい運動まで、いろいろな運動を紹介する。

運動の行い方を分かりやすい図で示し、動きをイメージしやすいようにする。

運動のポイントについて、やさしい言葉で説明を加える。

スモールステップを設け、力に応じて段階的に取り組めるようにする。

練習の工夫の仕方の例を紹介し、画一的な練習にとどまらずに自分に合った方法で取り組むことができるようにする。

自己評価の観点に楽しさや学び方に関する内容を盛り込み、技能面に偏らないようにする。

2 研究の方法

研究の見通しに基づき、次のような計画で授業実践及び検証をする。

(1) 授業実践計画

対 象	吉井町立岩平小学校 3年1組(男子11名、女子8名 計19名)		
単元名	「チャレンジマット」: 基本の運動(器械・器具を使つての運動)	期間	平成14年10月下旬 6時間予定

本単元「チャレンジマット」は、基本の運動領域中の器械・器具を使つての運動であり、マットを使った運動を教材とする。この「マットを使った運動」を、高学年の器械運動領域のマット運動と区別するため、以下「マット」と記述する。

(2) 検証計画

検証項目	検 証 の 観 点	検証の方法
見通し1	つかむ過程において、興味・関心に応じて「マット」のいろいろな技を自由に選べるよう、学習資料を活用したことは、今もっている力で楽しく「マット」をすることに有効であったか。	・学習活動の観察 ・学習資料への記述の分析
見通し2	追求する過程において、「マット」の中で自分に合った技を見つけたり、練習方法を工夫して運動したりできるよう、学習資料を活用したことは、自分のめあてに進んで取り組み、追求する楽しさを味わうことに有効であったか。	・学習活動の観察 ・学習資料への記述の分析
見通し3	まとめる過程において、追求の成果を確認し合ったり、発表し合ったりする活動に学習資料を活用したことは、できるようになった喜びを味わったり、互いに認め合ったりして、「マット」の楽しさを実感することに有効であったか。	・学習活動の観察 ・学習資料への記述の分析

(3) 抽出児童

A男	体を動かすことは好きだが、結果や記録、友達からどう見られているかを気にする傾向がある。幅広く運動にふれ、結果にこだわらずに楽しく追求し、互いに成果を認め合うことで、運動の特性を楽しめるようにしていきたい。
B男	運動に対して苦手意識をもっているので、伸び伸びと活動ができないことがある。力に応じて幅広く運動にふれ、自分に合っためあてをもち、自分に合った練習方法を選ぶことによって追求の楽しさを味わい、運動の特性を楽しめるようにしていきたい。

研究の展開

1 単元の考察、目標及び評価規準

単元の考察	<p>本単元「チャレンジマット」は、基本の運動の領域の、器械・器具を使つての運動の単元として設定したものであり、マットの上で、回転・バランスなど、自己の体をいろいろな動かして、各種の動きに取り組む楽しさを味わうことを主な内容とする。マットを使つての、いろいろな動きやいろいろな技にふれて取り組む楽しさを味わうとともに、練習した技を単独で、あるいは組み合わせさせて、自分なりの表現をして楽しむことができる運動である。「チャレンジマット」で取り上げる、いろいろな動き・いろいろな技は、体の基本的な動きの要素を含んでいると同時に、非日常的な動きの要素も含んでいる。これは、回転感覚・逆さ感覚・バランス感覚等の運動感覚や調整力・柔軟性を身に付けるために大切なものであり、高学年でのマット運動の基礎にもなるものである。</p> <p>本単元では、興味・関心に応じていろいろな動き・いろいろな技にふれて楽しみ、親しんでいけるようにしたい。いろいろな動き・いろいろな技を経験する中で、自分に合った技を見つけたり、練習方法を選んだり工夫したりし、楽しく追求することが大切である。そして、その成果を生かして表現し合い、認め合うことで「マット」の特性を楽しむことができると考える。</p>	
目標	<p>「マット」に親しみながら取り組み、仲間と協力して楽しく運動ができる。</p> <p>自分のめあてに応じて、練習方法を選んだり工夫したりできる。</p> <p>自分の力に合う技を選び、「マット」ができる。</p>	
評価規準	おおむね満足できる状況	十分満足できる状況
	運動や健康・安全への関心・意欲・態度	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「マット」にめあてをもって取り組もうとしている。 ・順番やきまりを守り、友達と協力して準備や片付けを行っている。 ・安全に気を付けて、楽しく運動をしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「マット」にめあてをもって進んで取り組もうとしている。 ・順番やきまりを守り、友達と協力して準備や片付けを進んでいる。 ・互いの安全に気を付けて、みんなで楽しく運動ができるようにしようとしている。
	運動や健康・安全についての思考・判断	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「マット」が楽しくできるよう、自分のめあてに合わせて練習の仕方を選んでいる。 ・学習資料を参考に、運動のポイントに気をつけたり、自己評価をしたりしている。 ・質問をしたり、友だちからのアドバイスを生かしたりして練習している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「マット」が楽しくできるよう、自分のめあてに合わせて練習の仕方を選んだり工夫したりしている。 ・学習資料を参考に、進んで運動のポイントに気をつけたり、自己評価をしたりしている。 ・進んで質問をしたり、友だちからのアドバイスを生かしたりして練習の仕方を工夫している。
	運動の技能	
<ul style="list-style-type: none"> ・「マット」での基本的な動きを身に付け、自分の力に応じて運動ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「マット」での基本的な動きを身に付け、自分の力に応じてタイミングをとり、バランスよく運動ができる。 	

2 指導計画（6時間予定）

表中の は検証にかかわる内容を示す

過程	時間	学習活動	支援	評価項目と評価の方法
つかむ	1	<p>オリエンテーションを行う。</p> <p>単元の学習の進め方を知る。</p> <p>学習資料の活用の仕方を知る。</p>	<p>単元の学習計画と注意点を説明する。</p> <p>学習資料の活用の仕方を説明する。</p> <p>（・個人資料 ・ 掲示資料 ・ 個人カード）</p>	<p>学習の進め方が分かり、期待感をもっている。</p> <p>（関心・意欲・態度）</p> <p>・行動の観察</p>
	2	<p>いろいろな技を行って楽しむ。</p> <p>個人資料・掲示資料を参考に、興味・関心に応じていろいろな技を自由に選んで行う。</p> <p>行った技を個人資料や個人カードに記録する。</p>	<p>ための運動は、2人組で見合いながらいろいろな技を行うことができるように個人資料を活用するよう助言する。また、多くの種類を経験できるように、十分時間をとる。</p> <p>主運動は、好きな技を選んで行うことができるよう、掲示資料を活用して技ごとに場を設定する。</p> <p>（見通し1）</p> <p>学習の記録は技能面にこだわらないようにし、楽しむことをねらいとして活動できるよう助言する。</p>	<p>進んでいるいろいろな技を行い、楽しく運動している。</p> <p>（関心・意欲・態度）</p> <p>・行動の観察</p> <p>・個人資料、個人カードへの記入</p>

追 求 す る	3 ・ 4 ・ 5	<p>自分に合った技を練習する。 個人資料・掲示資料を参考に いろいろな技を試し、自分に 合った技を見つける。 めあてに応じて運動の場を 選んで練習する。 個人資料・掲示資料を参考 に、練習の仕方を選んだり工 夫したりする。 個人資料・掲示資料を参考 に、自分の力に応じて技のポ イントを意識して練習する。 練習成果を個人カードに記 録する。</p> <p>友達と互いに見合ったり、アドバ イスし合ったりする。</p> <p>第6時の発表内容を計画する。</p>	<p>自由に試しができるよう、掲示資料を活用して技 ごとに場を設定する。 めあてに応じて運動の場を選んで練習するよう 助言する。 個人資料・掲示資料を活用しながら工夫して練習 できるよう、技ごとに場を設けるとともに、補助 的な運動の場を設定する。</p> <p>自分の力に応じて技のポイントを意識して練習 できるよう、個人カードへの記録は技能面の自己 評価を盛り込むよう助言する。 (見通し2)</p> <p>めあてに向けて練習できるよう助言したり、児童の アイデアや参考になる姿を取り上げて、全体に紹介 する。</p> <p>個人資料を参考に、工夫して計画を立てられるよう 助言する。</p>	<p>自分のめあてをつか んでいる。(思考・判断) めあてに応じて場を選 んだり、練習方法を工 夫したりしている。 (思考・判断) ポイントを意識して練 習している。 (思考・判断) ・行動の観察 ・個人資料、個人カード への記入</p> <p>交流や協力をしながら練 習している。 (関心・意欲・態度) ・行動の観察 工夫して計画を立ててい る。(思考・判断) ・計画カードへの記入</p>
ま と め る	6	<p>技を発表し合い、見合う。 個人資料を参考に、追求の成 果を生かして、組み合わせた 技を発表する。 全体の場で技を発表し、互い に見合い、認め合う。</p> <p>振り返りをする。 単元の振り返りをし、「マット」 についての感想をまとめる。</p>	<p>技を選んだりつなげたりし、工夫して発表でき るよう、個人資料を活用するよう助言する。</p> <p>練習の成果を生かして運動し、互いに見合うこ とができるよう発表の場を設ける。 (見通し3)</p> <p>自分の感想をまとめることができるよう、学習カー ドに記述する場を設け、振り返りの時間をとる。</p>	<p>練習の成果を発表す ることができる。(技能) ・行動の観察 友だちの成果を認める ことができる。 (関心・意欲・態度) ・行動の観察</p> <p>「マット」の楽しさや次の 学習への意欲を表現して いる。(関心・意欲・態度) ・振り返りカードへの記入</p>

研究の結果と考察

1 つかむ過程において、興味・関心に応じて「マット」のいろいろな技を自由に選べるよう、学習資料を活用したことは、今もっている力で楽しく「マット」をすることに有効であったか

つかむ過程では、やさしい技を数多く経験できるよう、ためしの運動の時間を長くとした。ためしの運動は、個人資料を参考に自由に好きな技を選んで行うこととし、2人でマット1枚を使い、互いに見合いながら運動できるようにした。児童はためしの運動に興味を示し、意欲的に行った(資料1)。「これ、おもしろいね。」という声が多く聞かれた。主運動は掲示資料を活用し、技ごとに場を設定した。(資料編 - 3参照)。児童は興味・関心をもとに、いろいろな技を選んで取り組んだ。このことは個人カードへの記入からもうかがえた。

A男はN男と組んでためしの運動を行った。ページをめくってじっくり選ぶよりも、順にどんどんやりたいようで、「ようし、全部やってみるぞ。」と、言いながら取り組んだ。主運動でも、A男はそれぞれの技に興味を示し、掲示資料の順に場を巡っていった。掲示資料を見ながら、「こうかな。」「よしできた。」「ううん、むずかし

資料1 ためしの運動の「ブリッジ」をする児童の姿



いな。」と、つぶやきながら、いろいろな技をやってみていた。このことから、できそうな技だけでなく、いろいろな技を試してみようという意欲が感じられた。学習資料でいろいろな技を紹介して自由に選べるようにし、同時に技能面にこだわらずに行えるようにしたことで、A男の活動は広がっていき、楽しく運動できたと考える。

B男は仲良しのY男と組んでためしの運動を行った。B男は自分の興味・関心をもとに、Y男の意見も取り入れて技を選んでいった。B男は比較的やさしい技を中心に選ぶであろうと予想していたが、実際には興味・関心をもとに選び、むずかしい技でも挑戦していた。B男は主運動の時間にK男と交流しながら仲よく運動した。教師が掲示資料を使って二人組の技を紹介すると、K男をさそって二人で行った。B男はK男にアドバイスしたり、「よし、もう一回やってみよう。」と、K男を促したりしていた。B男は技を選ぶのに時間がかかるときもあったが、学習資料を参考に自由に選べるようにしたことでB男の活動は広がっていき、友だちと交流しながら楽しく運動できたと考える。

他の児童も、学習資料を見ながら興味・関心に応じていろいろな技を行い、楽しく「マット」をすることができていた。「マット」に対して苦手意識をもっていた児童も、やさしい運動を紹介したことにより、「先生、これ、おもしろいね。」と、しきりに楽しさを表現した。

以上のことから、つかむ過程において、興味・関心に応じて「マット」のいろいろな技を自由に選べるよう、学習資料を活用したことは、今もっている力で楽しく「マット」をするのに有効であったと考える。

2 追求する過程において、「マット」の中で自分に合った技を見つけたり、練習方法を工夫して運動したりできるよう、学習資料を活用したことは、自分のめあてに進んで取り組み、追求する楽しさを味わうことに有効であったか

追求する過程では、毎時間の初めに行うためしの運動において、技に変化をつけたり、二人組の技にしたりするなど、工夫をする姿が見られた。また、主運動の時間には、個人資料や掲示資料を参考に、思い思いの場に分かれ、自分の練習したい技に進んで取り組んだ(資料2)。

主運動の時間に、A男は『かべのぼりとうりつ』、『前まわり』、『うしろまわり』を選び、それぞれの場で友達とアドバイスし合いながら練習した。個人資料や掲示資料を見て自分に合った技を選んでいった。本時の感想(資料3)に、自分の力に合っためあてを設定し、追求を楽しめたことが表現されている。ポイントについても、掲示資料を参考に意識して練習していた。「こうかな。」「よし、できた。」「ううん、むずかしいな。」等のつぶやきからも、工夫している様子がうかがえた。「坂道マット」や「ろくぼく」を使い、工夫して練習する姿も見られた。

B男はR男と組んでためしの運動を始めた。R男の選んだ技をいっしょにやることもあったが、自分で選んだ技に相手をさそうことが増えた。これは、自分に合った技を選んでいることの表れと考えられる。主運動の時間にB男は『ゆりかご』を中心に練習した。何種類かの『ゆりかご』を、掲示資料を見比べながら練習していた。B男は『かいきやくゆりかご』にも挑戦し、掲示資料でポイントを確認して、ひざを伸ばすことを意識しながら練習した。また、掲示資料・個人資料の中で紹介した「重ねマット」の場も使って練習していた。ひざは少し曲がっていたが、伸ばして開こうと意識していた。これらの観察から、B男は自分に合った技を選び、自分の力に応じてポイントを意識しながら、工夫して練習ができたと考える。B男は本時の感想(資料3)に、ゆりかごの練習を楽しめたことを

資料2 主運動の『三点倒立』を練習する児童の姿



表現した。

資料3 第4時の感想

(A男) るくぼくとうりつで十本できたのがうれしい。かべのぼりとうりつで3秒間できたのがうれしい。うしろまわりをしていて、ボキッといううでがいたくなって、もういちどしたらできたのがうれしかった。

(B男) ゆりかごがすごくおもしろかった。あと、あたらしいわざをつぎの時間につくりたいと思いました。

他の児童も、じぶんのめあてに向けて楽しく練習し、追求の楽しさを味わえたことを、本時の感想の中で表現した(資料編 - 1参照)。

以上のことから、追求する過程において、「マット」の中で自分に合った技を見つけたり、練習方法を工夫して運動したりできるよう、学習資料を活用したことは、自分のめあてに進んで取り組み、追求する楽しさを味わうことに有効であったと考える。

3 まとめる過程において、追求の成果を確認し合ったり、発表し合ったりする活動に学習資料を活用したことは、できるようになった喜びを味わったり、互いに認め合ったりして、「マット」の楽しさを実感することに有効であったか

発表に向けての準備では、個人資料を参考に、技を選んだり、組み合わせたりして、全員が自分の発表計画を立てることができた。資料をそっくりまねるのではなく、自分の好みや力に合わせて技を選び、工夫して組み合わせていた(資料編 - 2参照)。第6時の発表会は、全体場で互いに技を見合えるように場を設定した。全員が自分の計画に沿って発表をすることができ、児童は友達の発表の様子に興味深く見ていた(資料4)。

資料4 発表会での児童の姿



発表会の場で、A男は友達の発表をよく見ていた。A男は、発表を見ながら、「すごいなあ。」とつぶやいたり、発表をした友達に「じょうずだったよ。」と声をかけたりしていた。これらの観察から、A男は友達の発表を共感的な態度で受け止めることができたと考える。A男は次のような発表をした。

(A男) 発表内容:『小さい前まわり』『コンパス前まわり』『大きいかいきやく前まわり』『トルネードジャンプ』

『ひざのぼしうしろまわり』

気をつけたいところ:『ひざのぼしうしろまわり』でくずれないようにしたい。

『コンパス前まわり』を入れることで流れにアクセントをつけたり、発展型の『大きいかいきやく前まわり』や苦手とする『うしろまわり』を組み入れたりしている点から、これまでの学習によって自信をもつことができたと考える。A男は大きな声で説明をしながら発表した。回転が不安定なところもあったが堂々と発表ができた。発表後は満足した様子で笑顔をうかべた。

B男は発表会の間、友達の発表に対してよく拍手をしていた。表情の変化やつぶやきは少ないが、自分がいっしょに練習をした友達の番になると、身をのり出すようにして見ていた。この様子から友達を応援する気持ちがうかがえた。B男は次のような発表をした。

(B男) 発表内容:『れんぞくあぐら前まわり』『小さいゆりかご』『前まわり』『トルネードジャンプ』

『うしろまわり』『一本ぼう』『大の字バランス』

気をつけたいところ:『あぐら前まわり』の脚のつかい方。『大の字バランス』で脚を大きく開く。

自分の好きな『ゆりかご』と『あぐら前まわり』を中心にしていることから、興味・関心をもとに構成していることがうかがえる。B男も自分の技を説明してから発表を始めた。途中で次の技を忘れてしまい計画書に目をやる場面があったが、それ以外は順調に進められた。『あぐら前まわり』も成功し、練習の成果を生かすことができて、うれしそうな表情で席にもどった。

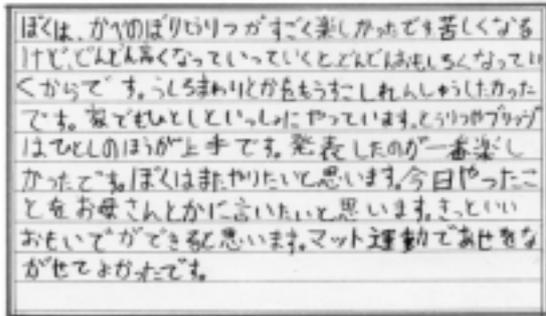
発表会の振り返りで、A男とB男は資料5のように感想を表現した。発表会を楽しみ、充実感を味わえたことを表現している。友達の発表への賞賛や発見も表現されている。

単元全体のまとめでは、A男とB男は資料6・7のように「チャレンジマット」の感想を表現した。この内容から、「マット」の楽しさを実感できたことがうかがえる。

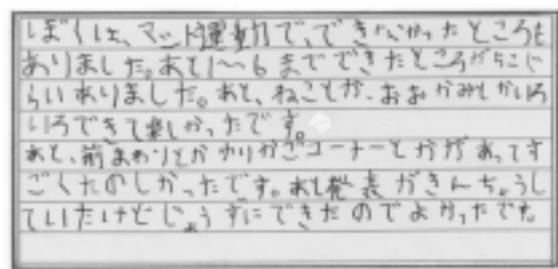
資料5 発表会についての感想

- (A男) 自分の発表について.....しっばいしたけど力いっぱいやれて気持ちよかった。
ともだちの発表について.....自分にはできないわざや、きがかかったわざがあり、とてもじょうずだった。
- (B男) 自分の発表について.....すこしへんになったけど、じょうずにできてよかったです。楽しいくふうができた。
ともだちの発表について.....RくんとかYくんとか、ほとんどの人がうまくできていました。

資料6 「チャレンジマット」についての感想(A男)



資料7 「チャレンジマット」についての感想(B男)



他の児童も感想文の中で、発表会を楽しめたことを表現した(資料編 - 2参照)。また、単元全体の感想文から、「マット」の楽しさを実感できたことがうかがえた(資料編 - 3参照)。

以上のことから、まとめる過程において、追求の成果を確認し合ったり、発表し合ったりする活動に学習資料を活用したことは、できるようになった喜びを味わったり、互いに認め合ったりして、「マット」の楽しさを実感することに有効であったと考える。

研究のまとめと今後の課題

学習資料を活用し、いろいろな運動の仕方から自由に選んだり、自分に合った運動を工夫して練習したりしたことで、興味をもって幅広く運動にふれながら、自分の力に合わせて楽しく運動し、自分のめあてに進んで取り組むことができた。技能面に偏ることのないよう配慮して学習資料を構成し活用したことで、単元の種目に苦手意識をもっていた児童も楽しく運動することができた。まとめる過程では、学習資料を参考に、各自がアイデア豊かに活動内容を計画し、追求の成果を生かして運動することができた。互いに、がんばりや工夫を認め合うことができ、運動の楽しさを実感できたと考える。

体育における学習資料は、種目ごとの運動の特性と単元における児童の実態に合わせて構成し活用することにより、より有効的であると考える。

今後は、「マット」の他の種目や他の領域の運動における学習資料の活用も検討し、それぞれの運動の特性を楽しめるよう、指導の工夫を図りたい。また、学習資料を構成する上で、自己評価に役立つ内容の工夫も今後の課題としたい。

<参考文献>

- ・岩崎 英夫/戸田 雄二 著 『マットの授業 低・中学年編』 えみーる書房(1993)
- ・高橋 健夫 編著 『体育の授業を創る』 大修館書店(1994)